

表丹沢セドノ沢



期間：令和5年6月18日

種別：会山行

山城：表丹沢セドノ沢

参加者：河本、大西、久保田

コースタイム：8:23 天神尾根入口→10:23 F3→14:24 書策新道入口→15:28 天神尾根入口→15:41 戸沢山荘

沢登りデビュー

以前から楽しいとは聞いていた沢登り。元水泳部なので、水場というだけでテンションが上がる。

早朝に皆さんと合流し、自然大好きな大西純平さんともお会いでき、車内のBGMはGreen Day。行きの道中で既にもう楽しかった。そうこうしているうちに丹沢に到着。ヒル除けスプレーを目一杯かけて出発です。

最初水は無かったが、少しずつ細い川が現れてくる。早く浸かりたい気持ちを抑えて足を進める。いよいよ川が本格的になり、さあ最初の一步、足を浸してみます。めちゃくちゃ冷たい。少し不安が過ったが無視して進む。

水無川本谷 F1 へ到着。先行のグループはロープを出していたが、我々はロープなしで登る。数日前に雨天が続いていたためか、水量が多い。水しぶきを浴びながら登った。足もホールドもしっかりあり難なく終了。少し寒いですが、体を動かしているのであまり気にならない。

続いて滝上でセドノ沢と出合。さらに右俣を見送って、左俣へ入っていく。いくつも滝があり、あえて水の中を進んでいった。徐々に苔が生えている岩が多くなってきた。岩自体は角ばっていたり、しっかり掴めたりで良いホールドなのだが、滑る岩が多くなってきた。気を付けながら登る。集中する感じが好きだ。今思い返しても楽しい気持ちになる。

さて、その次は忘れられない F3 の 10m の滝。滝を挟んで左と右のルート、どちらに行くべきか悩んだ。どちらも悪いルートに見えたからだ。まず左ルート（苔ばかりで岩が水しぶきをたっぷり浴びたぬるぬるルート）に行くことになった。だが、遠目にはハーケンが見当たらない。とりあえずロープを出し、河本さんが登り始めた。今にも滑り落ちるんじゃないかと見ているだけで怖い。こういうときに、万が一落ちたらまずはどう対応すればいいか、どこに連絡したらいいか、応急処置はどうするかをずっと考えていた。いつまでもやってもらう側ではいたくないので、今後の課題だ。

さて、滝の中盤までどうにか登った。だが、そこまで行ってもやはりハーケンがない。ハーケンを打っても岩が脆くて全く利かない。危なすぎるので仕切り直して右ルートで行こうということになった。でも、なにも支えがない中、どうやってぬるぬる岩を下るのか。そこはさすが河本さん。岩にスリングを回してカラビナを付け、ロープを使って降りた。何度も言うが、岩が脆い。スリングを回した岩が崩れ落ちないか、本当にひやひやした。そんな中、河本さんのその場の対処力と精神力に感動した。右ルートは残置ロープがあり、比較的簡単に登れた。よくみるとたしかにロープが遠目からでも見えた。早く見つけるべきだった。

緊張感ある滝を越えたところで、一旦休憩しようと純平さんがホットコーヒーを淹れてくれた。滝に打たれ冷えた体に染み渡る。幸せだ。

その後はまた徐々に水量が少なくなり、ガレ場が続いた。足が取られて個人的には一番嫌な場面だった。大小の岩が崩れ落ち、何度も「らーっく！」と叫んだ。上から落ちてきた落石が私のお腹にも当たった。良い経験だ。でも、みなさんの助けを借りて何とか登ることができ、登山道へ出た。あとはひたすら下り、山行終了となった。

今回の山行で、沢登りが大好きになった。知人が言うには、沢登りはクライミングの総合力

がとても必要な、実はとても難しいものだそうだ。たしかに、そうだった。私の登山デビューだった妙義縦走より危ない場面は多くあったし、万が一大きなケガをした場合の救助もとても遅くなるそうだ。今後も楽しんでクライミングをするために、細心の注意を払って取り組もうと思った。もしもの場合の対応力を身に付けたい。